

<3> 科目別シラバス

| 科目(細目) | 具体的内容 |
|--------------------------------------|--|
| 1 職務の理解 | |
| (1) 多様なサービスの理解 【3時間】 | ① 介護保険サービス(居宅、施設) ② 介護保険外サービス |
| (2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解 【3時間】 | ① 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ② 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ③ ケアプランの位置づけに始まりサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 |
| 2 介護における尊厳の保持・自立支援 | |
| (1) 人権と尊厳を支える介護 【4.5時間】 | ① 人権と尊厳の保持 ○ 個人としての尊重、○ アドボカシー、○ エンパワメントの視点、○ 「役割」の実感、○ 尊厳のある暮らし、○ 利用者のプライバシーの保護 ② 介護分野におけるICF ③ QOLの考え方 ④ ノーマライゼーションの考え方 ⑤ 虐待防止・身体拘束禁止 ○ 高齢者虐待防止法、○ 高齢者の養護者支援 ⑥ 個人の権利を守る制度の概要 ○ 個人情報保護法、○ 成年後見制度、○ 日常生活自立支援事業 |
| (2) 自立に向けた介護 【4.5時間】 | ① 自立支援 ○ 自立・自律支援、○ 残存能力の活用、○ 動機と欲求、○ 意欲を高める支援、○ 個別性の尊重と個別ケア、○ 重度化防止 ② 介護予防の考え方 |
| 3 介護の基本 | |
| (1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携 【1.5時間】 | ① 介護環境の特徴の理解 ○ 訪問介護と施設介護サービスの違い、○ 地域包括ケアの方向性 ② 介護の専門性 ○ 重度化防止・遅延化の視点、○ 利用者主体の支援姿勢、○ 自立した生活を支えるための援助、○ 根拠のある介護、○ チームケアの重要性、○ 事業所内のチーム、○ 多職種から成るチーム ③ 介護に関わる職種 ○ 異なる専門性を持つ多職種の理解、○ 介護支援専門員、○ サービス提供責任者、○ 看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○ 互いの専門能力を活用した効果的なサービスの提供、○ チームケアにおける役割分担 |
| (2) 介護職の職業倫理 【1.5時間】 | ① 専門職の倫理の意義 ② 介護の倫理 ③ 介護職としての社会的責任 ④ プライバシーの保護・尊重 |
| (3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント 【1.5時間】 | ① 介護における安全の確保 ○ 事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○ リスクとハザード ② 事故予防、安全対策 ○ リスクマネジメント、○ 分析の手法と視点、○ 事故に至った経緯の報告(家族への報告、市町村への報告等)、○ 情報の共有 ③ 感染対策 ○ 感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)、○ 「感染」に対する正しい知識 |
| (4) 介護職の安全 【1.5時間】 | ① 介護職の心身の健康管理 ○ 介護の質に影響する介護職の健康管理、○ ストレスマネジメント、○ 腰痛の予防に関する知識、○ 手洗い・うがいの励行、○ 手洗いの基本、○ 感染症対策 |
| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | |
| (1) 介護保険制度 【3時間】 | ① 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ ケアマネジメント、○ 予防重視型システムへの転換、○ 地域包括支援センターの設置、○ 地域包括ケアシステムの推進 ② 仕組みの基礎的理解 ○ 保険制度としての基本的仕組み、○ 介護給付と種類、○ 予防給付、○ 要介護認定の手順 ③ 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○ 財政負担、○ 指定介護サービス事業者の指定 |
| (2) 医療との連携とリハビリテーション 【3時間】 | ○ 医行為と介護、○ 訪問看護、○ 施設における看護と介護の役割・連携、○ リハビリテーションの理念 |
| (3) 障害者自立支援制度およびその他制度 【3時間】 | ① 障害者福祉制度の理念 ○ 障害の概念、○ ICF ② 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○ 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ③ 個人の権利を守る制度の概要 ○ 個人情報保護法、○ 成年後見制度、○ 日常生活自立支援事業 |

| | |
|---|---|
| 5 介護におけるコミュニケーション技術 | |
| (1) 介護におけるコミュニケーション 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○ 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○ 傾聴、○ 共感の応答 ② コミュニケーションの技法、道具を用いたコミュニケーション ○ 言語的コミュニケーションの特徴、○ 非言語コミュニケーションの特徴 ③ 利用者・家族とのコミュニケーションの実践 ○ 利用者の思いの把握や感情の共感、○ 利用者の意欲低下の要因の考察、○ 家族の心理的理解、○ 家族へのいたわりと励まし、○ 信頼関係の形成、○ 自己覚知、○ アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ④ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実践 ○ 視力・聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○ 失語症や構音障害に応じたコミュニケーション技術、○ 認知症に応じたコミュニケーション技術 |
| (2) 介護におけるチームのコミュニケーション 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 記録における情報の共有化 ○ 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○ 5W1Hを用いての適切な正しい記録、○ 介護に関する記録の種類、○ 個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、○ ヒヤリハット報告書 ② 報告・連絡・相談の留意点 ③ コミュニケーションを促す環境 ○ 情報共有の場、○ 会議の設定、○ 役割の認識の場（利用者とは頻りに接触する介護者に求められる観察眼）、○ ケアカンファレンスの重要性 |
| 6 老化の理解 | |
| (1) 老化に伴うところとからだの変化と日常 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○ 防衛反応（反射）の変化、○ 喪失体験 ② 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○ 身体的機能の変化と日常生活への影響、○ 咀嚼機能の低下、○ 筋・骨・関節の変化、○ 体温維持機能の変化、○ 精神的機能の変化と日常生活への影響 |
| (2) 高齢者と健康 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○ 骨折、○ 筋力の低下と動き・姿勢の変化、○ 関節痛 ② 高齢者に多い病気とその日常生活の留意点 ○ 循環器障害（脳梗塞・脳出血・虚血性疾患）及びその危険因子と対策、○ 老年期うつ病症状やうつ病性仮性認知症、○ 誤嚥性肺炎、○ 病状の小さな変化に気付く視点、○ 感染症と高齢者 |
| 7 認知症の理解 | |
| (1) 認知症を取り巻く状況 【0.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症ケアの理念と視点 ② パーソンセンタードケア |
| (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 【2.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の定義と概念 ○ もの忘れとの違い ② 認知症の原因疾患とその病態、特徴 ○ せん妄の症状 ③ 原因疾患別ケアのポイント ④ 健康管理 ○ 脱水、便秘、低栄養・低運動の防止、○ 口腔ケア、○ 薬物療法、○ 認知症に使用される薬 |
| (3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 【2.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○ 中核症状、○ BPSD、○ 不適切なケア、○ 生活環境の改善 ② 認知症の利用者への対応 ○ 心理的共感、○ 尊厳の重視、○ 傾聴及び相手の世界の理解、○ 適切なコミュニケーション、○ 進行や状況にあわせたケア |
| (4) 家族への支援 【0.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 受容過程での援助 ② 介護負担の軽減（レスパイトケア） |
| 8 障害の理解 | |
| (1) 障害の基礎的理解 【1時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 障害の概念とICF ○ ICFの分類と医学的分類、○ ICFの考え方 ② 障害者福祉の基本理念とノーマライゼーション |
| (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 【1.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 身体障害 ○ 視覚障害、○ 聴覚・平衡障害、○ 音声・言語・咀嚼障害、○ 肢体不自由、○ 内部障害 ② 知的障害 ③ 精神障害 ○ 統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、○ 高次脳機能障害、○ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 ④ その他の心身の機能障害 |
| (3) 家族の心理・かかわり支援の理解 【0.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 家族への支援 ○ 障害の理解・受容支援、○ 介護負担の軽減 |
| 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 | |
| < I 基本知識の学習・・・10.5時間 > | |
| (1) 介護の基本的な考え方 【1.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 理論に基づく介護 ② 法的根拠に基づく介護 |
| (2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 学習と記憶・感情と意欲の基礎知識 ② 自己概念と生きがい ③ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ④ ところの持ち方が行動に与える影響 ⑤ からだの状態がところと与える影響 |

| | |
|---|---|
| (3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 【6時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ② 骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ③ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ④ 自律神経と内部器官に関する基礎知識 ⑤ ことごとからだを一体的に捉える視点 ⑥ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点 |
| ＜Ⅱ 生活支援技術の学習…54時間＞ | |
| (4) 生活と家事 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 家事と生活の理解 ○生活歴・多様な生活習慣や価値観の理解 ② 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○ 自立支援・予防的な対応の視点、○ 主体性や能動性を引き出す視点 |
| (5) 快適な居住環境整備と介護 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 快適な居住環境に関する基礎知識 ○ 家庭内に多い事故、○ バリアフリー ② 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○ 住宅改修、○ 福祉用具貸与 |
| (6) 整容に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 【6時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 整容に関する基礎知識と支援技術 ○ 身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、○ 身じたく、○ 整容行動、○ 洗面の意義・効果 |
| (7) 移動・移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 【9時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 移動・移乗に関する基礎知識 ② さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ○ 車いす・歩行器・つえ等の活用 ③ 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法(阻害することごとからだの要因の理解と支援方法)、○ 利用者と介助者の双方が安全で安楽な方法、○ 利用者の自然な動きの活用、○ 残存能力の活用・自立支援、○ 重心・重力の働きの理解、○ ボディメカニクスの基本原理、○ 体位変換及び褥瘡予防、○ 移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗、ベッドと車いす間の移乗、車いすと洋式トイレ間の移乗) ④ 社会参加の留意点と支援 |
| (8) 食事に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 【7.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 食事に関する基礎知識 ○ 食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、○ 低栄養・脱水の弊害、○ 食事と姿勢、○ 咀嚼・嚥下のメカニズム、○ 空腹感と満足感、○ 食事の好み ② 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ③ 楽しい食事を阻害することごとからだの要因の理解と支援方法 ④ 食事に関する社会参加の留意点と支援 ⑤ 口腔ケア ⑥ 誤嚥性肺炎の予防 |
| (9) 入浴、清潔保持に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 【9時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ○ 羞恥心や遠慮への配慮、○ 体調の確認 ② さまざまな用具の活用方法 ③ 楽しい入浴を阻害することごとからだの要因の理解と支援方法 ④ 清拭(全身清拭・部分清拭) ⑤ 目・鼻腔・耳・爪の清潔 ⑥ 陰部洗浄 ⑦ 足浴・手浴・洗髪 |
| (10) 排泄に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 【9時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 排泄に関連する基礎知識 ○ 排泄とは(身体面・心理面・社会的な意味)、○ プライドや羞恥心・プライバシーの確保 ② さまざまな排泄環境整備と用具の活用方法 ○ 一般のトイレ、○ ポータブルトイレ、○ おむつ ③ 爽快な排泄を阻害することごとからだの要因の理解と支援方法 ○ 排泄障害が日常生活に及ぼす影響、○ 排泄介助の留意点、○ 便秘予防(水分摂取・食物繊維摂取等の食事内容の工夫、腹部マッサージ) |
| (11) 睡眠に関したことごとからだのしくみと自立に向けた介護 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 睡眠に関する基礎知識 ② さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ○ 環境整備(室温・湿度・光・騒音等) ③ 快い睡眠を阻害することごとからだの要因の理解と支援方法 ○ 安眠のための介護の工夫、○ 安楽な姿勢、○ 褥瘡予防 |
| (12) 死にゆく人に関したことごとからだのしくみと終末期介護 【4.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 終末期に関する基礎知識とことごとからだのしくみ ○ 終末期ケアとは(介護従事者の基本的態度等)、○ 高齢者の死に至る過程(老衰による自然死等)、○ 臨終が近づいたときの兆候と介護、○ 多職種間の情報共有の必要性 |
| ＜Ⅲ 生活支援技術演習…12時間＞ | |
| (13) 介護過程の基礎的理解 【6時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 介護過程の目的・意義・展開 ② 介護過程とチームアプローチ |
| (14) 総合生活支援技術演習 【6時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 事例による演習 ○ 2事例(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可等の事例) ② ①に関する介護技術の相互評価 |
| 10 振り返り | |
| (1) 振り返り 【3時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 研修を通して学んだこと ② 今後継続して学ぶべきこと ③ 根拠に基づく介護 ○ 利用者の状態に応じた介護と介護過程、○ 身体・心理・社会面を総合的に理解した上での介護、○ チームアプローチの重要性 |
| (2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修 【1.5時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 継続的な学習の必要性 |
| ○ 修了評価 【1時間】 | <ul style="list-style-type: none"> ① 筆記試験による1時間の修了評価 ※ 「ことごとからだのしくみと生活支援技術」における介護に必要な基礎的知識の理解及び生活支援技術習得も修了評価の内容とする。 |